



筑波大学留学生センター

日本語教育論集

第30号

2015

ま え が き

日本語を学ぼうとする人、日本の文化など日本事情を理解したいと考える人はさまざまです。日本国内や日系企業への就学・就業を目指す方もいれば、日本文化の学問的研究を目指す方もいます。国際的な政治・経済の動向にともない日本語および日本事情の学習への要望は刻々と変化し多様化しています。

日本で学ぶ留学生は、日本語で専門課題を学習する正規生に加え、より短期間の学習を目指す者も増え、受け入れる大学側も英語で提供する講義を増やすなど様態が多様化しています。同時に日本語および日本事情学習に対するニーズも多様化しています。さらに、留学生の出身国籍も多様化し、異なる母語や文化的背景をもつ学習者への柔軟な対応が求められ、かつ教育を支援するために解決すべき課題も多様化しています。特に短期間の留学においては学習の効率化が課題であり、補足自習教材等の充実が不可欠です。他方、英語で教育を受ける学生や研究を実施する研究者達にも、日本での生活のサポートとなる日本事情の教材が必要です。本学で開発している自習用e-learning教材等は多様化する学生・研究者を大学等の高等教育研究機関が受入れるために必須であり、その国際化に資するものです。

本誌に収録した研究論文等は、当留学生センターの日本語・日本事情教育の現場での実践的活動から得られた成果でありアウトカムです。今年度も、日本語を読む、書く、聞く、話す、を目指す学習者への新しい指導の試みや理論展開など多様な研究論文と報告を掲載することができました。必ずや今後の教育における論拠や示唆となるものと信じておりますので、ご活用いただければ幸いです。

なお、平成22年度に文部科学省より認定を受けた筑波大学留学生センターの全国共同利用日本語・日本事情遠隔教育拠点は今平成26年度が当初計画の最終年度であり、留学生センターがグローバル・コモンズ機構の中の国際交流支援部門として統合され、より国際的な大学を目指すうえでの過渡期を迎えています。来年度からは新たな組織の枠組みの中で日本語・日本事情遠隔教育拠点として活動を引き続き強化し、日本語・日本事情の教材の作成、教育法の発信、そして遠隔教育による海外との交流および国際ネットワーク構築につなげてゆくことが本学の責務と考えます。皆様のご指導・ご助言をこれからも宜しくお願いいたします。

2015年2月

グローバル・コモンズ機構
国際交流支援部門（留学生センター）
副部門長 河 瀬 眞 琴

目 次

研究論文

1. 日本語動詞「きく」のコロケーションについて
—WEBコーパスと日本語母語話者・上級日本語学習者の判断から—
…… 小野 正樹・朱 炫姝・デヒピティヤ スランジ デイルーシャ・
李 国玲・スワンナコート パッチャラーバン …… 1
2. 年少者用SPOTの開発
—問題作成とインターナショナルスクールにおける試行—
…… 酒井 たか子・河野 あかね・小林 典子 …… 21
3. 学習者による漢字力の自己評価について
—Can-do Statementsによる漢字力意識調査から—
…… 加納 千恵子・魏 娜 …… 35
4. 非漢字圏出身中級後期日本語学習者の読解過程の一事例
—漢字理解と文章理解の関連性に関する調査より—
…… 近藤 幸子 …… 55
5. 因果関係を表す文型の習得について
—中級レベル学習者の「原因・理由」の学習を通して—
…… 三木 杏子 …… 79
6. 初級レベルの会話における話題転換のための2つの理論
—意味ネットワークとジョハリの窓— …… 関口 美緒 …… 99

報 告

7. 初級日本語学習者を対象とした「歌のクラス」の実践報告
…… 加藤 あさぎ・関 裕子 …… 121
8. 発話促進と学習意欲向上の側面からみた「スキット活動」の可能性と課題
—初級クラスにおける実践の事例分析—
…… 鄭 聖美・ブッシュネル ケード …… 139
9. 文法力と会話力の向上を目指した複合活動に関する実践報告
—初級後期レベルにおける「オーラル・チェック」活動を通して—
…… 許 明子・小池 康・長戸 三成子・三木 杏子 …… 161
10. 意味のまとまりを考えた中級入門クラス
—初級から中級への縦のアーティキュレーションを考えたコース運営の試み—
…… 小野寺 志津・木戸 光子・田中 孝始・中山 健一 …… 181

| | |
|--|-----|
| 11. アンケート調査プロジェクトの試み —中級前期「話す500」の実践報告— …………… 小林 真紀子・三木 杏子 …………… | 201 |
| 12. manabaを活用した中級文法クラスの実践報告 —運用力向上を目指した文法クラスの実践を通して— …………… 許 明子・田中 裕祐・陳 一吟・ 中山 健一・古川 雅子・三木 杏子 …………… | 221 |
| 13. 授業報告 読む書くN571・N671 —今後の授業展開にむけて— …………… 高橋 純子 …………… | 241 |
| 14. 読むJ600 教材の最適化を目指して(2) —アンケート調査結果の報告— …………… 高橋 純子・和氣 圭子 …………… | 259 |
| 15. 2013年度の漢字中級前期クラスの実践報告 —漢字語彙の自律学習を促すためのクラス運営— …………… 鄭 聖美・中尾 菜穂 …………… | 281 |
| 16. ディベートの効果と可能性 —「日本語演習Ⅰ」の実践報告— …………… 高橋 純子 …………… | 299 |
| 17. クラス間連携によるプレゼンテーション指導の試み —2013年度日韓共同理工系学部留学生向け予備教育での取り組み— …………… 高原 真理・石上 綾子・鄭 聖美 …………… | 309 |
| 18. 日本語・日本事情遠隔教育拠点報告2014 …………… 李 在鎬・今井 新悟・甲斐 晶子・堀 聖司 …………… | 329 |

日本語教育研修会（2014.1～2014.12）講演要旨

| | |
|--|-----------|
| | …………… 339 |
| 5月21日(水) 日本語学習者の評価を考える ハワイ大学マノア校教授 近藤ブラウン妃美 | |
| 10月9日(木) 対照研究と言語教育 麗澤大学教授 井上 優 | |
| 2月13日(木)・14日(金) 第一回文化とことばのコラボレーション …………… 341 筑波大学留学生センター文化とことばのコラボレーション実行委員会 | |

あ と が き

筑波大学留学生センターは、今年も大きな変革の波の中にあった。平成26年度にグローバル・コモンズ機構に国際交流支援部門として統合されたものの、新しい機構の体制が整うまでの間、既存の組織も存続することになったため、新組織と旧組織が併存するという奇妙な状況が続いた。その一方で、筑波大学がスーパーグローバル大学として採択されたことに伴い、日本人学生の国際化を図るための実践的外国語教育の推進と、その基盤となるべきコミュニケーション力をつけるための国語教育と、激増する留学生に対する日本語教育のさらなる充実という3つの大きな柱からなる「グローバル・コミュニケーション教育センター(仮称)」構想が立ち上がった。留学生センターの日本語等教育部門は、平成27年度からグローバル・コモンズ機構から離れて、その新センターに入る予定となっている。

したがって、このセンター論集30号は留学生センターの下で発行される最後の号となる予定である。本号には6本の研究論文と、12本の報告が寄せられている。研究論文の中には、本センターの専任・非常勤の教員によるものばかりでなく、本学の大学院生や大学院修了生との共同研究論文も含まれている。本センターにおける日本語教育が、教員ばかりでなく、大学院人文社会科学研究科の国際地域研究専攻および国際日本研究専攻の院生たちによっても支えられていることの証であろう。

本号に掲載されている報告論文からもわかるように、激増する留学生たちの多様なニーズに対応するため、初級から中上級に至るまで多様な日本語クラスが実施され、様々な意欲的な取り組みが実践されている。また、今年度は5年間にわたって本センターが行ってきた日本語・日本事情遠隔教育拠点事業の第一期が終了する。本年度も日本語等教育部門の業務を滞りなく行ってこられたのは、センター長をはじめ、グローバル・コモンズ機構の国際交流支援部門の先生方および事務職員の皆様、そして非常勤の日本語教員の方々からの多大な協力と献身的な支援のおかげであり、心から感謝申し上げたい。

一方、来年度から始まる「グローバル・コミュニケーション教育センター」の全容はまだ不明である。教員は心を合わせて新たな課題と取り組んでいく必要があるだろう。筑波大学のグローバル化に伴う日本語教育のさらなる充実、改善のために、引き続きご協力とご支援をお願いしたい。

2015年2月

留学生センター日本語等教育部門長
加 納 千恵子

「日本語教育論集」の編集発行について

(昭和63.9.29改訂)

(平成 2.2.20改訂)

(平成18.1.24改訂)

(平成26.1.27改訂)

1. 目的

日本語教育およびその関連領域に関する教育研究上の成果を編集発行する。

2. 編集委員会等

「日本語教育論集」の編集発行に関する事項を審議するための編集委員会を置き、編集委員会は編集委員で組織する。

3. 編集委員

留学生センター日本語等教育部門の教員によって構成する。

4. 編集委員の任期

編集委員の任期は、1年とするが、再任を妨げない。

5. 投稿資格

原則として、本学の専任・非常勤教員とする。

共著の場合は、上記の教員が1名含まれていればよい。

また、共同研究者、研究協力者など、留学生センター長が適当と認める者。

6. 投稿論文の分野

日本語教育およびその関連領域に関するもの。

7. 投稿論文の採否

編集委員あるいは編集委員の委嘱する専門家の査読の結果により、編集委員会が採否を決定する。

8. 使用言語および書式

使用言語は日本語または英語とするが、編集委員会で認める限りどの言語でもよい。

原稿は編集委員会の定める書式に従い、長さは原則として20ページを越えないものとする。

9. 発行回数

原則として、年1回とする。

毎年、9月初旬に投稿申し込み、10月初旬に投稿締切、査読を経て12月初旬に最終原稿締切、翌年2月末に発行予定とする。

10. その他

本論集は、筑波大学電子図書館に登録されている。

執 筆 者

| | | | | |
|------|-----|-------------------|-------------------|-------------|
| 今 井 | 新 悟 | 筑波大学人文社会系 | 教 授 | (留学生センター勤務) |
| 小 野 | 正 樹 | 筑波大学人文社会系 | 教 授 | (留学生センター勤務) |
| 加 納 | 千恵子 | 筑波大学人文社会系 | 教 授 | (留学生センター勤務) |
| 酒 井 | たか子 | 筑波大学人文社会系 | 教 授 | (留学生センター勤務) |
| 木 戸 | 光 子 | 筑波大学人文社会系 | 准教授 | (留学生センター勤務) |
| ブッシュ | ケード | 筑波大学人文社会系 | 准教授 | (留学生センター勤務) |
| 許 | 明 子 | 筑波大学人文社会系 | 准教授 | (留学生センター勤務) |
| 李 | 在 鎬 | 筑波大学人文社会系 | 准教授 | (留学生センター勤務) |
| 石 上 | 綾 子 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 小野寺 | 志 津 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 加 藤 | あさぎ | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 小 池 | 康 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 小 林 | 真紀子 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 近 藤 | 幸 子 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 関 | 裕 子 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 関 口 | 美 緒 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 高 橋 | 純 子 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 高 原 | 真 理 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 田 中 | 孝 始 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 田 中 | 裕 祐 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 鄭 | 聖 美 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 陳 | 一 吟 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 中 尾 | 菜 穂 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 中 山 | 健 一 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 長 戸 | 三成子 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 古 川 | 雅 子 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| | | 日本語・日本事情遠隔教育拠点研究員 | | |
| 三 木 | 杏 子 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 和 氣 | 圭 子 | 筑波大学留学生センター | 講師 | (非常勤) |
| 甲 斐 | 晶 子 | 筑波大学留学生センター | 日本語・日本事情遠隔教育拠点研究員 | |
| 堀 | 聖 司 | 筑波大学留学生センター | 日本語・日本事情遠隔教育拠点研究員 | |

小林 典子 筑波大学留学生センター共同研究員
河野 あかね 筑波インターナショナルスクール教諭
魏 娜 筑波大学大学院人文社会科学研究科 (大学院生)
朱 炫 妹 筑波大学大学院人文社会科学研究科 (大学院生)
スワンナクート パッチャラーパン
筑波大学大学院人文社会科学研究科 (大学院生)
デヒピティヤ スランジ ディルーシャ
筑波大学大学院人文社会科学研究科 (大学院生)
李 国 玲 筑波大学大学院人文社会科学研究科 (大学院生)

編 集 委 員

加 納 千恵子 教 授 (人文社会系・留学生センター)
今 井 新 悟 教 授 (人文社会系・留学生センター)
小 野 正 樹 教 授 (人文社会系・留学生センター)
酒 井 たか子 教 授 (人文社会系・留学生センター)
木 戸 光 子 准教授 (人文社会系・留学生センター)
ブッシュネル ケード 准教授 (人文社会系・留学生センター)
許 明 子 准教授 (人文社会系・留学生センター)
李 在 鎬 准教授 (人文社会系・留学生センター)
関 崎 博 紀 助 教 (人文社会系・留学生センター)

筑波大学留学生センター日本語教育論集 第30号

平成27年2月28日

発行者 筑波大学留学生センター長

渡 邊 和 男

発行所 筑波大学留学生センター

〒 305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

電話 029-853-6062

印刷所 筑波印刷情報サービスセンター協同組合

〒 300-4111 茨城県土浦市大畑 565-2

電話 029-862-5027

Journal of Japanese Language Teaching
(NIHONGO KYOIKU RONSHU)
Volume 30
Contents

Research Articles

1. On the Collocation Japanese Verb "KIKU": from the decision of the Japanese native speakers and advanced learners of Japanese and WEB corpus
..... ONO Masaki, JU Hyunju, DEHIPITIYA Dilusha,
LI Guoling, SUVANAKOOT Patcharaphan
2. Development of a SPOT for children and adolescents : the creation of test items and a trial run in an international school
..... SAKAI Takako, KONO Akane, KOBAYASHI Noriko
3. A Study on Self-Assessment of Kanji Ability : a survey of learners' awareness concerning their working knowledge of Kanji by using a can-do statements form KANO Chieko, WEI Na
4. A Case Study of Reading Processes Observed in Late Intermediate Japanese Learners from Non-Kanji Countries : analysis from the relation between Kanji comprehension and text comprehension KONDO Yukiko
5. Acquisition of Sentence Patterns Expressing a "Casual relationship": a look at intermediate level learners' learning of "cause and reason"
..... MIKI Kyoko
6. Two Logics for Topic Change for Beginners in Conversation : a semantic network and Johari window SEKIGUCHI Mio

Practical Articles

7. A Report on a "Song Class" for Beginning Level Japanese Language Learners
..... KATO Asagi, SEKI Yuko
8. A Study of Skit Activities from the Viewpoint of Speaking Proficiency and Learning Motivation JUNG Sungmi, BUSHNELL Cade
9. A Report on a Multiple-Activity Aiming to Improve Grammatical Knowledge and Communication Skills : an examination of "Oral Check" activities for advanced beginners HEO Myeongja, KOIKE Yasushi,
NAGATO Minako, MIKI Kyoko
10. A Report on an Intermediate Introductory Class Focusing on Understanding of the Meaningful Units : a trial considering the articulation of beginning to intermediate courses management ONODERA Shizu, KIDO Mitsuko,
TANAKA Takashi, NAKAYAMA Kenichi
11. A Japanese Questionnaire Research Project : a report on the intermediate level speaking 500 course KOBAYASHI Makiko, MIKI Kyoko

12. A Report on Intermediate Grammar Classes Utilizing manaba :
an examination of the practice of grammar class with the aim of
improving proficiency HEO Myeongja, TANAKA Yusuke, CHEN Yiyin,
NAKAYAMA Kenichi, FURUKAWA Masako, MIKI Kyoko
13. A Report on Two Intermediate Japanese Reading and Writing Classes :
toward a new design for teaching reading and writing TAKAHASHI Junko
14. A Report on an Intermediate Japanese Reading Class :focusing on learner needs
..... TAKAHASHI Junko, WAKI Keiko
15. A Report on the 2013 Lower-Intermediate Kanji Class :
encouraging learner-centered study for Kanji vocabulary
..... JUNG Sungmi, NAKAO Naho
16. Results and Potentials of Debate Practice : a report on Japanese Seminar I
..... TAKAHASHI Junko
17. A Trial of Presentation Training featuring Inter-Class Cooperation :
on the preliminary education for undergraduate students in the
Japan-Korea Program in 2013
..... TAKAHARA Mari, ISHIGAMI Ayako, JUNG Sungmi
18. Report on the Center for Distance Learning of Japanese and Japanese Issues 2014
..... LEE Jae-Ho, IMAI Shingo, KAI Akiko, HORI Seiji

Abstracts of the Lectures given at the Japanese Language Education Training Meeting
(2014.1~2014.12)